

## 会 議 録

会 議 名	第三回東松山市立小・中学校適正規模審議会					
開 催 日 時	令和2年2月18日（火）			開 会	15時30分	
				閉 会	17時00分	
開 催 場 所	東松山市総合会館 多目的室（1階）					
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）「子ども達にとって望ましい学習環境を考えるアンケート」 結果報告（案）について （2）アンケートの傾向分析について （3）その他 4 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	2人		
非公開の理由						
委員出欠状況	会 長	新里 孝一	出	委 員	木村 かおり	出
	職務代理	佐藤 高志	出	委 員	江連 万徳	出
	委 員	田中 恵子	出	委 員	清水 通	出
	委 員	三村 浩男	出	委 員	山本 和順	出
	委 員	大木 聖子	出	委 員	高野 昌枝	欠
	委 員	塩原 憲孝	出	委 員	金 朝子	出
	委 員	椎名 和昭	出	委 員	中嶋 栄	出
	委 員	庭野 さやか	出			
事 務 局	教 育 長 中村 幸一			教育総務課長 阿部 康裕		
	教 育 部 長 小林 強			教育総務課副課長 柴崎 恭史		
	教育部次長 鈴木 寿			学校教育課副主幹 山本 由香		
	教育部次長 柳沢 知孝			学校教育課主任 高坂 直之		
	学校教育課長 小林 聡					

次 第	顛 末
1 開会	(事務局開会宣言)
2 あいさつ	(教育長あいさつ)
	(会長あいさつ)
3 議事	
新里会長	<p>それでは、議事に入ります。次第に基づきまして、議事(1)「子ども達にとって望ましい学習環境を考えるアンケート結果報告(案)」について、また議事(2)「アンケートの傾向分析について」も関連いたしますので、まとめて事務局からの説明を求めます。</p>
学校教育課副主幹	<p>【議事(1)「子ども達にとって望ましい学習環境を考えるアンケート結果報告(案)」について、議事(2)「アンケートの傾向分析について」について説明】</p>
新里会長	<p>設問ごとにご意見ご質問をいただきたいと思います。まず、アンケートの実施の経緯や概要については、以前も確認しております。アンケートの集計についてですが、予算が潤沢であれば外部委託するような案件であったと思いますが、事務局にご尽力いただいたことに感謝いたします。回収率について市民が48%、保護者が80%、教員が100%となっており、保護者及び教員については、何ら問題はないと思います。市民については、アンケートの種類にもよると思いますが、例えば市町村合併などの案件ですと、市民の関心も高いものですから60%から70%ということもありますが、書かれているように期限1週間前にはリマインドはがきを出していただいたわけですので、止むを得ない結果だと思います。テーマからして、約50%というのは悪い数字ではないだろうと、資料として使えないことではないものと思います。しかも、アンケートにしばらくされるものでもございませんので、あくまでも参考ということで、参考値ということであれば問題ないと思いましたが、いかがでしょうか。何かご意見があれば出して</p>

	<p>いただきたいと思います。</p>
江連委員	<p>市民アンケートの回答が60歳代と70歳代が半数を占めている点について、どのように考えますか。</p>
新里会長	<p>一般的に高齢者の方は、とてもまじめに対応して下さったことだと思いますが、回答率が高いということについて何かございませんか。一般的な結果であったということでもよろしいでしょうか。</p>
新里会長	<p>それではアンケートの結果について、まずは6ページからいきたいと思います。小学校の学級数についてですが、こちらはご覧のような結果になっております。こちらは市民も保護者も教員も、明らかに3学級が一番多い結果となっております。ご意見がございましたら伺いたしたいと思います。</p>
新里会長	<p>私から1つ質問をさせていただきたいのですが、3学級が一番多くなっており、その次が2学級となっておりますが、2学級と3学級の違いが私どもはあまり分からないので、先生方に教えていただければと思います。1学級と2学級は、すごく違うと思いますが、2学級と3学級の差がそこまでの違いがないように思えるのですが、学校運営の関係からすると違うのでしょうか。</p>
大木委員	<p>学校側からの立場で言うと、教職員が一学年で2人だと、2人きりで色々考えていかなければならないです。3人いれば文殊の知恵ではないですが、複数の意見が出るよさがあるのではないかとということで、ほとんどの教職員は3学級あればいいのではないかと考え判断したと思います。</p>
新里会長	<p>子どもについては、どうでしょうか。</p>
大木委員	<p>児童にとっても2学級あれば、人間関係が深まりやすいです。しかし、選択肢のアについては、2学級より、3学級の方がクラス替えをして、人間関係が更に深まるということになります。</p>

三村委員	あと、学校行事を行う際には、3学級あるとやりやすいと思います。
新里会長	よくわかりました。何かほかにお気づきの点等がありましたら出してください。
清水委員	2学級3学級という学級数による学年経営であったり、学級経営であったり、学校経営全般という意味合いで考えると、理想的には2学級3学級あれば、学年の間や子ども達の間、先生たちの間で、いい意味での対抗意識という雰囲気生まれてきます。対応している先生方が、どのように子ども達の育成につなげていけるか、これが先生方の指導の力量であって、3学級になったらなったで、切磋琢磨することや、競争意識が学習面や体力向上面でも、また生徒指導上でも、いい意味で生まれてくる傾向があります。いずれのケースにしても、置かれている現場の状況において、先生方がどういう意識で学級経営を行うか、子ども達の教科指導、生徒指導につなげていけるかということが、一番本質的に大事なところだと思います。2学級がいいとか3学級がいいとか、そういう形での分析や方向性は、校長もいらっしゃるのと同じことを考えているのかなと思います。
新里会長	続いて、7ページの設問2ですが、学級人数についてです。これも一番多いところは、21人から30人というところですが、2番目が市民と保護者で若干違うということです。理由は、先生方の目がとどきやすく、きめ細かな指導が行えるといったことですが、これならば21人から30人よりも11から20の方がいいのではないかという見方もできると思いますがいかがでしょうか。
江連委員	1割3分の保護者と1割の教員が、11人から20人を選んでいる、またエを選んでいる差に着目した方がいいかなと思います。現状、法令では40人としているところですが、実際は30人前後です。その半分の方がいいと選ぶ方が1割を超えています。また、先生方が13%いるというところに着目すると、現状、厳

	<p>しいと考える現場の先生方や保護者の方がいらっしゃるということを考えてみました。</p>
新里会長	<p>確かにおっしゃるとおり、法令の半分以下を選択する方が多いということに注目すべきということは、確かに意見として大事なことであると思います。</p>
椎名委員	<p>小学校の学級人数は、法令では40人、第1学年が35人と定められておりますが、自分たちが子どもだった時と比べると、何回か見直しをされているのかなと思いました。</p>
新里会長	<p>その点いかがでしょうか。</p>
教育長	<p>かつて、私が小学校の頃、昭和30年度あたりは、50人学級でありました。その後、45人になり、40人になりました。もっと減らせないかと要望をいただいている中で国では、今のところ40人までです。ただし小学校1年生は40人では多いというところで、国が35人にしています。</p> <p>ちなみに、埼玉県は小学校2年生も35人が可能ということで、教員の定数配置をしてもらっています。平成13年頃に40人を下回ることも可能となり、埼玉県は小学校1・2年生を35人とし中学校1年生は38人が可能となった経過がございます。</p>
新里会長	<p>ほかにございますか。</p>
塩原委員	<p>(1)を見ていただくと、ウの21人から30人のところが、他と比べて数が倍以上多くなっています。現実的には20人を切ってしまうと、学級経営のなかで、学校行事等も厳しいものがあります。学級経営の観点からしますと、あまり人数が少なくなると役割が多くなるとか、意見が出てこないとかの面もあります。(1)の表の教員部分を見ると、イは48人、エは12人ということですが、全体的にはウかなと思います。</p>
大木委員	<p>小学校の現場からすると、イの少ない人数できめ細やかな指導</p>

	<p>をしたいということが当然あります。色々な児童もおりますし、外国籍の子や、特別な支援が必要な子など多様な児童がおります。少ない方がいいなと思うのは特に国語と算数、それに対してある程度人数がほしいなど、大勢で意見を交換したり盛り上がりたいと思う教科は音楽や体育、学級会などです。その両方のせめぎ合いで落ち着いたのがウの21人から30人ではないかと思えます。</p>
<p>新里会長</p>	<p>よくわかりました。次に中学校の学級数については4～6学級が多いということですが、何かご意見ありましたらお願いします。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>ここに書いてあるとおりでと思います。傾向にありますように「クラス替え」ということもありますし、2番目にあります「体育祭や文化祭等の学校行事が盛り上がる」というところが大きいかなと思います。全校的には2～3学級というところが多いと思いますが、気がかりなのは、2～3学級で9学級を下回ってしまいますと、教員定数の関係で学校の中に、ある教科の先生がいないということが起こることがあると思います。より専門的な指導をする上では、3学級以上あった方がいいと思います。またそれ以上になり、かなり生徒数が多くなり、同じ学年の中で、この子、誰だったかなとか、教員も同じようなことがあるので、このようなことを踏まえて、この結果になったのかなと思います。</p>
<p>清水委員</p>	<p>中学校という環境を考えますと、ある程度の集団形成ができる適正規模の学級数は、地域によって実情や生徒数も違うわけで、ある意味、部活動が成り立たないとか、今話に出ました免許外指導を実施せざるを得ないというような専門性が十分でないことは、保護者との信頼関係とかにおいて問題になってくることがあるのかなと思います。特に中学校においては、学力の面でもそうですが、人間関係の基礎づくり、コミュニケーション能力の醸成など、教科で点数にならない部分で、いろいろ刺激を受けながら人生を大きく左右するような3年間になります。ですから慎重に、メリット・デメリットを見極めた上で、学習環境づくりをやっていけるといいかなと思います。</p>

<p>新里会長</p>	<p>それでは9ページ 学級人数についてですが、一番多いのは、21人から30人で、理由としては「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい」でございましたが、何かご意見ございますか。</p>
<p>新里会長</p>	<p>よろしいでしょうか。それでは進めさせていただきます。 10ページの設問5で「児童・生徒数の減少が見込まれる中での対応について」で、選択肢は「学校区を変更」「統廃合」それから「複式学級」「特認校制度」です。数字だけ見ますと、学区変更、統廃合、特認校という順番です。ウの複式学級で対応するは1割ありますが、答えている方も良く分からないという実情があると思えますが、複式学級にはいい面もあるとは思いますが、方向性的にどのようなものでしょうか。</p>
<p>田中委員</p>	<p>複式学級というのは、他学年の子ども達と一緒に学齢を組みます。例えば1・2年、3・4年、5・6年と組むだけではなく、2・3年で組むことや、4・5年で組むこともあります。複式学級の良さもたくさんあります。しかし、教育課程、特に体育などの目標が違うので、その時は、2・3年の複式学級の子ども達を1・2年と3・4年に分けたりします。</p> <p>東松山市教育委員会は多くの子ども達に手厚く、きめ細かにという方針の基に進めていらっしゃるの、児童生徒の人数が多いところなど、色々なところに人的な配慮をいただいていると感じております。ですが、複式学級にするということが、少ない人数のところ、人を配置することになります。やはり多い人数のところや、個別の支援が必要なところに人を配置した方が全体にいいのではないかと思います。</p> <p>私は3校が1校になったところを経験し感じたことですが、地域としては学校への思い入れがたくさんあります。3校が1校になった時に、「学校は変わったけれど、地域の気持ちは変わらないから、地域の学校として受け入れている」と保護者の方が言ってくださいました。学校名は全部変わりましたが、私たちの思いは受け継いでもらっているので、3つが力を合わせることで教育であると言ってくださいました。今後、通学区域を変更するなど、</p>

	<p>色々出てまいりますが、そこにも地域のコミュニティはたくさんあると思いますが、やはり子ども達のために、応援しているんだという気持ちは、保護者の方はお持ちだと思いました。統合するという言葉は、無くなるという言葉ではなく、もう一度、再び、再編するという意味であるということを知ったことがあります。</p> <p>伝統はきっと脈々と受け継がれていくと思います。再編されたところでは、学校教育がいかになんか新たな取組をしなければいけないという時に、気持ちを汲んで努力をしていくこと、適正規模を担っていくことは大事なことだと思います。</p>
<p>新里会長</p>	<p>参考にお伺いさせていただきました。ありがとうございました。そういった学校の教育的効果とかいかがでしたでしょうか。</p>
<p>田中委員</p>	<p>全体で45人の学校と、550人規模の学校にお世話になり、自分のおかれた状況の中で、精いっぱい教育をしていきました。小さいと学級を編制する時に、クラス替えがなかったもので、そのところは大変気を遣いました。縦割りや地域との交流で補い、人権教育を大事にすることにも取り組みました。その後、1.2倍の規模の学校でお世話になりましたが、学校全体の規律があり、やはり人数がいるとお互い切磋琢磨し、運動会なども盛り上がりました。小規模は小規模の良さが、中規模は中規模の良さがありませんので、そこで精いっぱいやっていくことが大事だと思いますが、学校は適正規模があるということ、両方を経験して思いました。</p>
<p>新里会長</p>	<p>複式学級と答えた回答は全体で1割でしたが、これについて、何かございますか。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>この回答の中で、複式学級で対応するという以外は、ある意味では望ましいと思われる対応のことだと思われそうですが、その中で複式学級が11.1%というのを委員の中で、どう捉えるのか。田中委員がおっしゃったように、工夫すれば複式で対応できないことはないですが、学校の適正規模を考えたときに、どちらがいいのかということだと思います。私は教員の立場ですが、皆さんから意見があればありがたいと思います。</p>



<p>金委員</p>	<p>私も小規模・中規模・大規模、色々な学校を経験してきました。それぞれの良さを引き出しながら、学校経営や学級経営をしていきます。</p> <p>ただ、小規模で人数が少なければ少ないほど、子ども達がいかにして、大人数の学校のような教育ができるかを考えていかなければならない。私が川島町で行ったことは、社会科見学は他の学校と一緒に実施しました。しかし、宿泊学習は1校で行きましたが、他の学校と一緒にになって、30～40人にして一緒にダンスをすとか、工夫をしました。いくら先生たちがいても子ども達の同士の交流とは違います。やはり、子ども達の満足度は5人や6人でやっても得られないのではないかと思います。色々工夫をすればできないことはないと思いますが、ここに上がっているような方策で、子ども達が楽しく学べるようになるのであれば、そちらを考えていくのが適正かなと思います。保護者も学級人数は20人から30人くらいで、せめて2～3学級ほしいと言っているわけですから、その願いを叶えてあげる方がよりよいのではないかと思います。</p>
<p>椎名委員</p>	<p>アの通学区域変更の回答が多かったことについてです。私は松一小校区ですが、松一小に本町から来る子が一家庭になってしまい、子供会もずっと役員になってしまうことなどもあって、2年前位から松一小は子供会をなくし、活動していない状態となっています。学区を編制する時も、本町は松一小と新明小、また、松葉町は松一小と青鳥小で、松葉三は青鳥小といったように行政を分けてしまうと子供会等も少なくなってしまうので、そこは考えた方がいいと思います。</p>
<p>新里会長</p>	<p>ありがとうございます。他に、保護者の方のご意見もごありますか。</p>
<p>江連委員</p>	<p>私の出身校のことですが、越生町の梅園小学校という1クラスの小さい学校のところから、越生中学校は大きい学校にいったのですが、あまり抵抗はなかったという思いがあります。大岡小学校から北中学校ということもありますが、子どもにとっては、ど</p>

	<p>うなのかなと思います。小さい学校から大きな学校に馴染んでいくことがあったので、経験談ですが、お話をさせていただきました。</p>
山本委員	<p>保護者の方に聞きたいのですが、今の「統廃合する」ということが、22%を占めている、印象よりは多いかなと、小規模な学校の保護者の方は、学校を残してほしいなとか考えたり、どの学校に対してのことかを考えると違った見方ができるのではないかと考えました。</p>
新里会長	<p>これはあくまでも、アンケートで、方針を作る際の基礎資料となるものですので、自由にご意見を言っていただきたい段階ですのでお願いします。</p>
田中委員	<p>小さいところを、無くすとかではなく、もう一度全体を見て再編する形かなと思います。この審議会としては、子ども達のために、どのような再編をすれば、子ども達が適正な教育が受けられるかという視点が大事なかなと思います。「廃」という言葉ではなくて「再編」という言葉で考えていただくのがいいのではと思います。</p>
庭野委員	<p>私は2年続けて、小学校から中学校へ子どもを送り出していますが、まだ人数が20名くらいいた時でしたので、「中1ギャップ」は感じなかったようです。</p> <p>今、在籍している子たちを考えた時、小さな学校ならではの縦割り活動が盛んなので、そんなに心配することはないのではと思います。自分に課せられた役目は一生懸命にやりますし、いい子ばかりです。廃校については、子ども達も関心があり、「無くなっちゃうんだよね」と聞かれることもあります。「無くなることは絶対ない。他の学校と協力してみんなが楽しく過ごせるための基礎を大人たちが作ってくれているんだよ。待っててね」としか子ども達には話せていないです。無くしてしまうのは簡単だと思いますが、今まで築き上げられたものを繋げながら、もっといい方法を吸収してお互いに補っていける環境を子ども達につくってあげたほうがいいと思います。ハコモノはきちんと整備されて残って</p>

	<p>います。通学距離が伸びることにより、負担となるのは子ども達です。子ども達が6年間すごく楽しかったと思える過ごせる環境づくりに携わらせていただきたいと思います。</p>
<p>新里会長</p>	<p>何度もいいますが、子どもの満足と子どものためにということを忘れてはいけないと思います。</p>
<p>清水委員</p>	<p>今、大前提となっている「子どもにとっての」という発想が重要な出発点です。子どもは、私達大人が考えている危惧している面や、行う過程を推測したり考えたりするものです。私も放課後子ども教室で、大岡小学校の1年生から3年生のお子さんを週に2度ほどお預かりして、普段の学校やお家の周りでは出来ない体験活動として、農業体験や夕焼け散歩などを行っています。子ども達はおかれている状況の中で、「お兄ちゃんお姉ちゃんと仲良くするだよ」、「小さい下の子の面倒をみるんだよ」など、こちらが心配しなくても精いっぱい活動をしています。他の子の宿題を教えあげたり、見てあげたり、何も言わなくても子どもは自然とできます。その辺を順応性というか、適応力であり、大人が考えるよりも、子ども達はおかれている環境で立場を、子どもなりに考えて行動していきます。成長していくのがすばらしいなど、学校勤務が長かったですが、改めて立場を変え、コーディネーターという形で、スタッフの皆さんと感じています。こちらで環境を整えてあげないと、形を整えてあげないと、ということも、もちろん大切な行政の仕事ですので、大切な状況を皆様と共有し、審議会を開いていることと思います。子どもの適応力の可能性というのは、可能性の原点ですから、そういう観点で、お子さん達を見てあげるキャパシティも大人は必要ではないかと私は思っています。</p>
<p>新里会長</p>	<p>設問6の通学距離について、保護者は短めの通学距離を選択し、教員は保護者・市民より長めの距離を選択する傾向にあったとのことですが、これに対してご意見がございましたか。</p>
<p>新里会長</p>	<p>それでは、設問1から6までを通して、何かございませんか。</p>

<p>江連委員</p> <p>新里会長</p> <p>新里会長</p> <p>学校教育課副主幹</p> <p>新里会長</p>	<p>中学校ですと、自転車通学がありますので、自転車通学だと距離が変わってくるのかなと思います。自転車として4 kmから5 kmと入れましたが、徒歩だと少し変わってくるかなと思いました。</p> <p>そういうことも踏まえて、今後検討していきたいと思います。そのほか、何かございますか。</p> <p>それでは、議案3その他について事務局お願いします</p> <p><b>【今後のスケジュールについて説明】</b></p> <p>それでは、以上を持ちまして、本日の議事を終了し、議長の座を下ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>
<p>4 閉 会</p>	
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和2年10月2日 署名委員 <u>庭野 さやか</u></p> <p>署名委員 <u>椎名 和昭</u></p>	